



第21弾 ダム放流情報を確実に伝えるために… 西警報局設置工事

**ダム放流が始まることを知らせ、人々の安全を守る警報局。
工事を通して、警報局の役割や構造について教えていただきました。**



今回お話を伺ったのは
研信電操株式会社
渡部 幹郎 さんです。

[インタビュー記事はこちら→](#)

1. 西警報局設置工事の内容を教えてください。

局舎設置



岡山県の工場で局舎製作 コンクリートの基礎を整備
(製作期間約2ヶ月)

局舎を現地までトラック輸送

ラフタークレーンで局舎を吊り上げ、
基礎の上に設置

局舎を建てる部分とスピーカーを設置する部分、それぞれ分けて工事を進めます。

※今回の場合は局舎を別の場所でつくり運び込みましたが、
輸送困難な場所などはその場で組み立てる場合もあります。

スピーカー設置



地面掘削など
設置場所を整備

コンクリートの基礎を整備

パンザマスト設置後、
コンクリート流し込み

残りのパンザマストを立て、
スピーカーを設置

2. 警報局の役割を教えてください。

ダムから放流を行うと、河川の水位が上がり、河川利用者や地域住民に危険が及ぶ恐れがあります。そのため、スピーカー放送、サイレン及び電光表示板などで事前に周知することにより、**安全を確保**するため警報局を設置します。



ちなみに防災無線は市が放送しているものです。ダムより放流をする場合は、ダム管理者がスピーカー放送やサイレンでお知らせをすることとなっています。

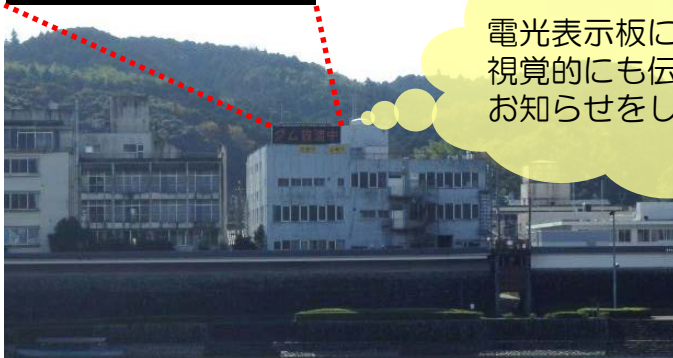
3. 警報局にはどんな種類がありますか。

- ①スピーカー放送のみを行う警報局
- ②スピーカー放送とサイレン吹鳴を行う警報局
- ③スピーカー放送、サイレン吹鳴、電光表示板の点灯を行う警報局
- ④電光表示板の点灯のみを行う警報局

などがあります。



ダム放流中



電光表示板によって視覚的にも伝わるようお知らせをしています。



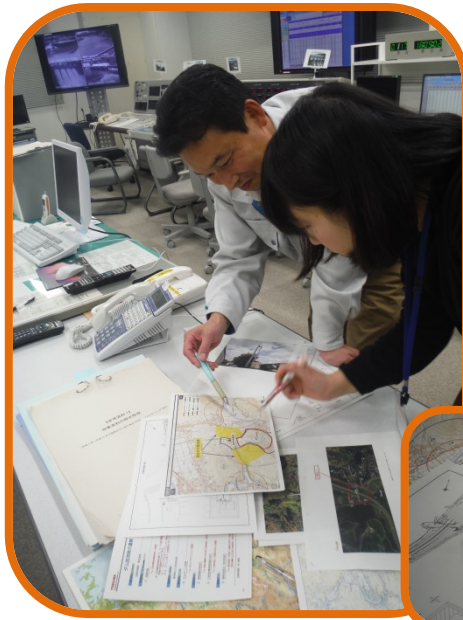
4. 鹿野川ダムが管理している警報局は 肱川流域に何箇所ありますか。

今回新しく設置された西警報局を含め
27箇所あります。

5. 警報局をたてる場所に条件はありますか。

ダム下流域全体にスピーカー放送及びサイレン
が聞こえるように、場所を選定しています。

どこにいても聞こえるように、
いろいろな場所に警報局が
あるんだね～！！



雨量観測局(テレメータ)	中継局(テレメータ)	サイレン・スピーカー局
水位観測局(テレメータ)	中継局(警報)	スピーカー局
電光局	サイレン警報範囲	スピーカー警報範囲

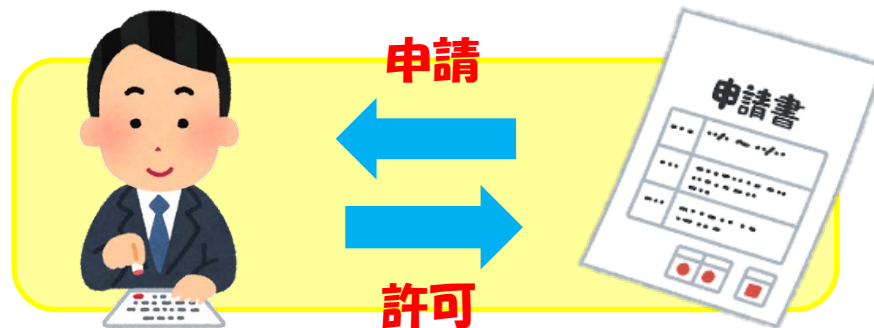
6. 放流警報装置、局舎をつくるためにどのような資格や申請が必要ですか。

今回の場合は、局舎を建てるために、県に**建築確認申請**を行い、確認を受けました。

また、ダムと放流警報局の通信に無線の電波を使用するため**無線局の免許状申請**が必要です。無線局の免許が無ければ、電波の送信及びアンテナの設置をすることができません。



建築確認申請は建てる区域によって必要か不要かが決まりますが、無線局の免許状申請は必ず行わなければいけません。



7. 局舎の構造はどうなっていますか。

局舎はALC（軽量気泡コンクリート）構造で、高さ2,650mm、幅2,000mm、奥行き1,800mmの大きさとなっています。局舎の中には放流警報装置、直流電源装置、サイレン制御盤、分電盤、同軸避雷器などの機器が収容されています。

ALC構造とは…コンクリートに発泡材などを加えて硬化させたもの。
一般的にはパネル状に成型し、鉄骨造の外壁や屋根などに使用。

機器をつくるのには
約3ヶ月かかるんだって！



8. どのような操作で警報を行っていますか。

鹿野川ダム管理庁舎の操作室に放流警報の**操作卓**があり、そこから無線を使った遠隔操作によりスピーカー放送やサイレン吹鳴による警報を行っています。

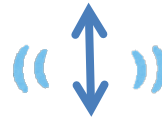


サイレン・スピーカーが設置してある鉄塔



操作室にある操作卓

鹿野川ダム



金山中継局



警報局

警報局

警報局



警報車に乗って川に人がいないかを確認しているよ!

ダム放流時の警報手順

放流開始時

1. 警報車による警報開始
2. 警報局よりスピーカー放送、サイレン吹鳴
3. 警報局回転灯・表示板 点灯

放流終了時

1. 警報局回転灯・表示板 消灯

鹿野川ダムより金山中継局に指示を送り、金山中継局からそれぞれの警報局に伝達されます。

大洲河川国道事務所が管理している金山中継所に、放流警報の中継局が設置されているそうです!



9. 作業の際に気をつけていることはなんですか。

一番気をつけていることは、作業に携わる方の**安全**です。工事中に事故が起きないように注意しています。非常に寒い中での現場作業が続いていたので、作業員の方の体調管理にも気をつけました。

また、初めて一緒に仕事をする各協力会社の方々と積極的にコミュニケーションをはかり、雰囲気の良い現場作りを心掛けました。

10. この工事でやりがいを感じる時はいつですか。

自分が携わった警報局、警報装置が正常に動作し、地域住民の方の安全に役立った時にやりがいを感じ、この工事に関わることができて良かったと思います。

また、現場で分からないことや困ったことがあり悩んでいる時に、周りの多くの方の**協力**を得て、少しずつ工事が進んでいく時にやりがいを感じます。



11. 地域のみなさまに一言お願いします。

警報局は大雨の時に、ダム放流をお知らせする**重要な設備**です。工事中、騒音や交通規制など、ご迷惑をおかけしました。これからも研信電操株式会社社員一同頑張って参りますので、よろしくお願いいたします。



あとがき

今回のインタビューでは、自分の住んでいるまちに警報局がつくられるということで、より身近に感じ、まず自分がこの警報局について理解を深めなければと思いました。事前に担当職員に警報局について操作卓などを見ながら教えていただきました。そうして学んでいたことで、実際のインタビューでもイメージがしやすく、工事担当の渡部さんにさまざまな質問をすることができました。一口に警報局設置工事と言っても、工夫を凝らし、その場所にあった方法で工事をすすめていることを知りました。

普段何気なく通りかかることも多い警報局。「なんのためにあるのだろう」、「あの建物に何が入っているのだろう」などと不思議に感じていた方もいらっしゃると思います。私の記事を見ていただいて、自分たちの身近にあるものがどんな役にたっているか、どれほど重要なものかということが少しでも伝わればよいと思います。

お忙しい中、インタビューにご協力いただきありがとうございました。

総務課 期間業務職員 山岡

